学校番号	201

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　現代文Ｂ　［改訂版］　（三省堂）						
副教材等	語彙力と読解力をつける現代文単語（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代文は文章を読んで「考えを深める」ことがもっとも大切な科目です。授業中は板書をただ写すだけでなく、しっかりと文章の内容を自分なりに考えて授業に臨んでください。また、わからない漢字、語句などは教員の指示がなくても自分で調べておくようにしてください。近代以降の様々な文章を読み、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めていきましょう。

２　学習の到達目標

１．近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める。
２．近代以降の様々な文章を読むことで、ものの見方、感じ方、考え方を深める。
３．進んで表現し読書することによって国語の向上を図り、人生を豊かにする態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	・授業時の反応 ・発問 ・プリント	・授業時の活動 ・発問	・ノートへの記入	・定期考査 ・発問	・定期考査 ・小テスト ・プリント ・指名読み ・発問
	上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	二部　評論一　鷲田清一「ぬくみ」	論旨を正確に追いながら，筆者の言う「相互性」が持つ意味について読み取る。	○			◎	○	a: 「自由」な社会における「つながり」の必要性について，引用事例を通じて考えようとしている。 d： 引用事例に注目し，筆者の考えを理解している。 e: 主な常用漢字の音訓の正しい使い方を身につけている。	a: ・授業時の反応 d: ・発問 ・定期考査 e: ・小テスト ・指名読み ・発問
	二部　小説一　多和田葉子「捨てない女」	①比喩や独特の表現描写から、「わたし」の考えを読み取る。 ②この小説において「ゴミ」とはどのような存在か、作者のことばに対する独自の感性を読み取りながら考える。	○			◎	○	a: 教材の内容や、作者に関心を持っているか。 範読・音読・指名読みの態度は積極的か。 d: 「書き損じた原稿用紙の行く末」を理解し、整理できるか。 小説の中で「ゴミ」はどのような存在か、理解し、整理することができるか。 e: 全文を正しく音読できるか。〈指名読み〉／語句の意味や用法を理解しているか。	a: ・授業時の反応 d: ・定期考査 ・発問 e: ・定期考査 ・発問
	二部　評論二　池内了「『なぜ』に答えられない科学」	筆者の見解をふまえ，「科学」と「人間」のありようについて考える。	○			◎	○	a: 語句や表現に注意して文脈を捉え，筆者の考えなどを，間違いなく，過不足なく読み取ろうとしている。 d:語句や表現に注意して文脈を捉え，筆者の考えなどを，間違いなく，過不足なく読み取っている。 e:読むことに必要な文章の組立て，語句の意味，語句の用法，表記の仕方について理解している。	a: ・授業時の反応 d: ・発問 ・定期考査 e: ・定期考査 ・指名読み ・発問

二学期	二部　詩・俳句「鞦韆は――俳句十六句」	近代から現代の代表的作者の手になる十六句を読み味わい，そこに描かれている情景や作者の心理を読み取る力を養う。	○		◎		○	a: 繰り返し音読することで俳句の韻律に慣れようとしている。 c: 俳句を読んで感じたこと文章にまとめることができるか。 e: 俳句の形式や修辞などについての理解を深めている。	a: ・授業時の反応 ・発問 c: ・ノートへの記入 ・感想文 e: ・小テスト ・プリント ・指名読み
	二部　評論三　野矢茂樹「猫は後悔するか」	「猫は後悔するか」という問いかけから「猫は後悔しない」という結論までの筆者の思考プロセスについて読み取る。	○			◎	○	a: 文章の組立てや骨組みを的確に捉えようとしている。 d: 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 e: 正しく理解し，使いこなせる言葉の数を増やしている。	a: ・授業時の反応 ・発問 d: ・発問 ・定期考査 e: ・小テスト ・プリント
	二部　評論三　港千尋「擬似群衆の時代」	文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し，様々な資料を調べ，その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。	○			◎	○	a: 評論を読むことで，視野の拡充を図ろうとしている。 d: 筆者の考えの展開に注意しながら，文章の内容を読み取っている。 e: 文章の組立てについて理解を深めている。	a: ・授業時の反応 ・発問 d: ・ノートへの記入 ・発問 e: ・小テスト ・プリント・

	二部　小説二　森鴎外「舞姫」	①「豊太郎」と「エリス」の運命的な出会い、同郷人の讒言による免官、「エリス」との愛情の深まりと束の間の幸せ、「エリス」の妊娠、友人「相沢」の取り計らいによって実現された「天方伯」からの召喚、「相沢」の意見、開かれた帰国への道と「豊太郎」の心の葛藤、そして帰国の決心、「豊太郎」の裏切りを知った「エリス」の発狂までのそれぞれの場面を、「豊太郎」の心理に即して読み進める。	○			◎	○	a: 森鷗外や、教材の内容に関心を持っているか。 範読・音読・指名読みの態度は積極的か。 d: 「豊太郎」と「エリス」の出会いを、「豊太郎」の心情に即して読み取ることができるか。 人間としての愛情（真情）と、エリートとしての立身出世の志との葛藤に苦悩する「豊太郎」の心情を読み取ることができるか。 e: 全文を正しく音読できるか。 語句の意味や用法を理解しているか。 森鷗外の代表的な作品やその文学史的な意義について理解しているか。	a: ・授業時の反　応 ・発問 ・プリント d: ・ノートへの記入 ・発問 ・定期考査 e: ・小テスト ・プリント ・指名読み

三学期	二部　小説二　森鴎外「舞姫」	舞姫 ②人間としての愛情と、エリートとしての立身出世の志との葛藤に苦悩しながらも、自らの心の弱さから、結局は自らの真情を曲げて権力に従ってしまう「豊太郎」の生き方を読み取る。	○			◎	○	a: 森鷗外や、教材の内容に関心を持っているか。 範読・音読・指名読みの態度は積極的か。 d: 「豊太郎」と「エリス」の別れまでを、「豊太郎」の心情に即して読み取ることができるか。 自らの心の弱さから、結局は自らの真情を曲げて権力に従ってしまう「豊太郎」の生き方を読み取ることができるか。 「豊太郎」の生き方を通して、明治の社会における知識人の苦悩を追体験し、さらに「自分とは何か」という自己へのまなざしを持つことができるか。 e: 全文を正しく音読できるか。 語句の意味や用法を理解しているか。 森鷗外の代表的な作品やその文学史的な意義について理解しているか。	a: ・授業時の反　応 ・発問 ・プリント d: ・ノートへの記入 ・発問 ・定期考査 e: ・小テスト ・プリント ・指名読み
	二部　評論四　小林秀雄「無常ということ」	筆者が述べる「歴史」と「思い出す」こととの関係について読み取る。	○			◎	○	a: 筆者の論理展開を把握しようとする態度を身につける。 d: 筆者の意図や主張を把握しながら文章を読む。 e: 語句や語彙の構造的な仕組みを理解する。	a: ・授業時の反応 ・発問 ・プリント d: ・定期考査 ・発問 e: ・小テスト ・プリント ・指名読み

	一部 詩・短歌 西脇順三郎「ギリシア的抒情詩」金子光晴「湖水」萩原朔太郎「時計」	繰り返し音読することにより，それぞれの作品世界の理解を深め，詩人たちの個性に触れる。	○	◎			○	a：詩を読むことに楽しさや興味を感じているか。感情を盛り込んで朗読できたか。範読・音読・指名読みの態度は積極的か。 b：詩を効果的に朗読したり、それを聞きながら情景を的確にとらえたり、表現を味わったりすることができるか。 e：詩を正しく音読できるか。語句の意味や用法を理解しているか。詩人や、その代表作について理解しているか。	a: ・授業時の反応 b: ・授業時の活動 ・発問 e: ・小テスト ・プリント ・指名読み

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く　c:書く能力　d:読む能力
e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。